

# あいのて

平成24年12月1日発行

発行：京築教育事務所

人権・同和教育室  
(TEL：0979-83-3602)

タイトル「あいのて」は、がんばっている人には絶妙のタイミングで“合いの手”を入れる、困った人には“愛の手”を差し伸べることができる、私たち人権・同和教育室員一同そんな人になりたいと願ってネーミングしました。

## はじめに

人権・同和教育室では日々の授業での人権感覚育成のために「人権が尊重される授業づくり10の視点」の周知・具現化を推進しているところです。学校からは「人権感覚育成の視点がわかりやすい」「学校で重点化して活用している」「特別支援教育の視点ともつながっている」などの声を頂いています。また、「もっとくわしく知りたい」という声もありました。

そこで、今回は実際の授業場面のどこに「10の視点」があるのかをくわしくみていきたいと思います。人権が尊重される授業づくりの参考にしてください。

また、最終ページでは、教師が身につけたい「授業の力」について連載で紹介していきます。第1回目は「ほめ言葉」についてです。皆さんは「ほめ言葉」をいくつ持っていますか。是非、ご一読ください。

## 「人権が尊重される授業づくり10の視点」活用例

### 人権が尊重される授業づくり10の視点

～授業を振り返って○×チェックをしてみましょう～



- |   |                          |
|---|--------------------------|
| ① 児童生徒の学習時間や、休み時間を確保していますか。               | <input type="checkbox"/> |
| ② 学習中のルールについての声かけをしていますか。                 | <input type="checkbox"/> |
| ③ 児童生徒は学習用具等を準備して学習に臨んでいますか。              | <input type="checkbox"/> |
| ④ 児童生徒が学習の見通しを持てる工夫をしていますか。               | <input type="checkbox"/> |
| ⑤ 名前を呼ぶときは、児童生徒を尊重した呼び方をしていますか。           | <input type="checkbox"/> |
| ⑥ 児童生徒の方をしっかりと向いて指示をしたり、話したりしていますか。       | <input type="checkbox"/> |
| ⑦ 信頼関係につながるほめ方、叱り方をしていますか。                | <input type="checkbox"/> |
| ⑧ 説明はポイントを絞り、児童生徒の活動する時間を確保していますか。        | <input type="checkbox"/> |
| ⑨ 児童生徒同士が話し合う場を設定したり、児童生徒の意見をつないだりしていますか。 | <input type="checkbox"/> |
| ⑩ 児童生徒が選択できる課題を準備していますか。                  | <input type="checkbox"/> |

今回は、管内の小学校で実際におこなわれた5年算数の授業指導案をもとに、「10の視点」をみていきたいと思います。この授業では、子どもたちは導入から興味関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいました。教師の声かけや、自己選択・決定の場、交流の手立てなど、様々な場面に「人権が尊重される授業づくりの視点」が見られました。もちろん算数科の目標も達成されていました。

次ページは、その指導案に「10の視点」や「人権が尊重される授業づくりのポイント」を書き加えたものです。今後の授業づくりの参考になればと考えています。是非、ご活用ください。

人権教育を特別なもの、プラスα的なものにとらえず、日々の授業を人権教育のフィルタを通して見直してみるという視点大切です。

### 【次ページ指導案の校内研修での活用例】

- ① 「10の視点」の欄を空欄にしたものを配付し、視点を書き込んでもらいます。  
(事前に「10の視点」を1項目ずつ記入した紙を用意する方法もあります)
- ② グループでお互いが見つけた「10の視点」の交流をします。
- ③ 全体で交流し、確認をします。

※ 校内の授業研等で使用した指導案をもとに「10の視点」の交流をしたり、「10の視点」を盛り込んだ指導案を作成して研修をおこなうのも有効です。



# 授業で身につけたい「授業コミュニケーション力」

(千葉市教育センター「読本・達人に学ぶ授業力」より)

「人権が尊重される授業づくり10の視点」⑤⑥⑦に関連しています。

左の漫画を見て下さい。「子どものつぶやきや発言をうまく取り上げられず、授業の進行に困ってしまった・・・」おそらく誰にでもある経験ではないでしょうか。自分が考えてきた流れや指導案にそって発問しても、なかなか自分の思うように授業は展開できません。なぜなら、子どもは一人一人様々な感情を持ち、思いがけない動きや発言をしますからです。では、そんな子どもたちとうまくコミュニケーションをとるためにどのような手立てが必要なのでしょう。

このコーナーでは「きく・みる・話す」について考えていきたいと思っています。「きく」「みる」「話す」は、人間の言語活動の中で最も基本的なコミュニケーションです。しかし、ちょっと教師が意識を変えるだけで子どもに変化が表れるのです。今回は「きく」について紹介します。

## きく

授業では、子どもに「しっかり聞いてますよ」「興味深い意見ですね」という教師からのメッセージを送ることが大切です。

キーワードは「はりとツボが効く」です。

「は」はハートの「は」 「り」はリターン  
「ツ」はつっこみの「つ」 「ボ」はボディの「ボ」のことです。  
さて「きく」には、いろいろな漢字があります。

聴く・・・身を入れてきく 聞く・・・人の言葉を受け入れて認識する  
訊く・・・たずねる 利く・・・役に立つ 効く・・・効き目や効果がある

この漢字に先ほどのキーワードを当てはめて考えてみましょう。

### 【ハートで聴く】

子どもの意見を受け入れ、最後までそのまま素直に聴くワザです。注意点は三つ。聴いているときは絶対に話さないこと。子どもの話を遮らないこと。すぐ違うと言わないこと。漫画の先生は、子どもの意見を否定的に返しています。ハートでじっくり身を入れて聴いてあげることが大切です。

### 【リターンしながら聞く】

人の言葉を受け入れ認識する、つまり、あいづちや繰り返しのせるワザです。リターンすることで子どもが安心感を持ち、つぶやきを促進させることができます。そのためには、場にあった合いの手やタイミングの良いあいづち、「いいねいいね」とほめるヨイショ、言葉の繰り返しなどが有効です。「そうなんだ」「なるほど」「たしかに」、略して「あいづちソナタ」です。漫画の先生も「あいづちソナタ」をすれば、少し状況が変わったかもしれません。

### 【ボディが利く】

態度や姿勢、視線で子どもに「聞いていますよ」と伝えるワザです。とにかく体で大きさに反応しましょう。うなずく、子どもの方を向く、子どもの意見を板書する、などが有効です。特に子どもの方を向くときは「目」と「へそ」を向け、「目できく」「へそできく」を心がけましょう。体を動かすことで、子どもは視覚的に「聞いてくれているんだな」という安心感をもち発言できるようになります。自分の体を大いに役立ててください。

## 「はりとツボが効く」 キーワードは



### 【つっこみながら訊く】

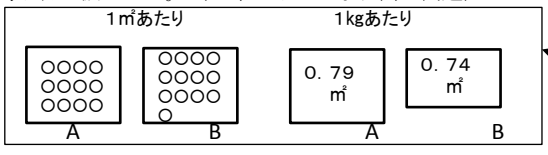
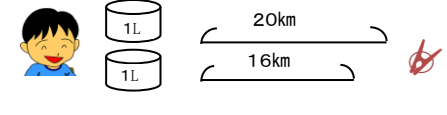
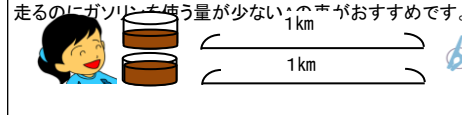
子どもの発言をききながら、いい質問や発問でもっと話してもらうワザです。「ボケ」と「つっこみ」で笑いをとるお笑いの世界の「つっこみ」を参考にして教師用にアレンジしてみましょう。つっこむ(たずねる)ことでさらに発言が増え、授業が活性化されることを期待します。

- つっこむ・・・常識から見ておかしいことを笑顔で訂正する。
- 振る・・・いいネタや話題、質問を振る。
- 捨てる・・・子どもが言ったことを流さず、捨ててつなげていく。
- ふくらます・・・子どもの発言に対してさらにのる。

# 第5学年 算数科 単元名「単位量あたりの大きさ」

## 本時のねらい

○ 単位量あたりの考えをもとに、ガソリン量と道のりというともに違う2つの量の大きさを比べる活動を通して、2つの車のうち、どちらが「おすすめ的車」なのか説明することができる。

学習活動	教師の支援・援助	視点
1. 今までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。 (1) 前時の学習を想起する。 (2) 学習問題を把握する。 Aの車は35Lのガソリンで700km走れます。 Bの車は50Lのガソリンで800km走れます。 (3) 解決の見通しについて話し合い、本時のめあてをつかむ。 【方法】1あたりで考える ア 1Lあたりで考える ● イ 1kmあたりで考える ●	○ 1あたりでそろえたと比べられたことを想起させるために、前時の学習を掲示物で振り返る。(ジャガイモの取れ高の問題)  ※ 言葉だけでなく、図を書いて説明するとわかりやすかったことを振り返る。 ○ 児童が「主体的に説明したい」という意欲につながるように、「隣のクラスの○○先生が車の購入で迷っているの、どちらの車がおすすめなのか説明しよう」という場面設定とする。 ○ 昨日のジャガイモのとれ高の問題と比べて、同じところと違うところを確認する。 同じ…2つの量がある・2つの単位がある 違う…ガソリンの量・道のり 1kmあたり・1Lあたりの考えを使って、どちらの車がおすすめなのか説明しよう ○ 今日の学習のゴールは「( )だから、( )の車がおすすめです。」という説明ができるようになることを確認する。	④
2. 課題を解決する (1) 自力解決する A: $700 \div 35 = 20$ B: $800 \div 50 = 16$ <b>アのやり方</b> Aの車は1Lで20km走ります。Bの車は1Lで16km走ります。だから、同じ1Lで長い距離を走るAの車がおすすめです。  (2) ペアで交流する (フリートーク8分間) (3) 全体交流する	○ 2つの方法のうち、自分がわかりやすいと思う方法から解かせる。 ○ 一つの方法で解けた児童は、もう一つの方法でも解かせるようにする。 ※ 机間指導の際には、あたたかい視線を送り、「学び方」「考え方」「人のかかわり方」「聴き方」などを「ほめる」ことを大切にする。 A: $35 \div 700 = 0.05$ B: $50 \div 800 = 0.0625$ <b>イのやり方</b> Aの車は1km走るのに0.05L使います。 Bの車は1km走るのに0.0625L使います。だから、同じ1km走るのにガソリンを使う量が少ないAの車がおすすめです。 	⑩
3. 本時のまとめをする。 (1) 今日の学習をまとめる。 (2) チャレンジ問題を解く。	1Lあたりで考えると、Aの方が走ることができる道のりが長い 1kmあたりで考えると、Aの方が使うガソリンが少ない だから Aの車がおすすめです。 ○ 「アとイの2つの考え方で解けるようになろう」と促す。 ○ 1Lあたりで走れる道のりのことを燃費といい、生活の中で活用されていることを知らせる。	⑧ ⑨

**視点④ 児童生徒が学習の見通しを持てる工夫をしていますか？**  
 児童生徒は学習の見通しを持つことで「学習に参加している」という実感が強くなります。授業に参加できてこそ、その後の活動の中で、人権感覚育成の大切な要素である、「自分が必要とされている」という有用感や、「できた」という成就感を実感できるようになります。

学習意欲や学習意識を高める導入の工夫がなされています。  
 ● 前時の学習を掲示物で振り返ることによって、「図を使って説明しよう」という意欲を持たせています。  
 ● 児童生徒の「説明したい」という意欲を引き出しています。  
 今日学習で、何ができるようにしなければいいかが明確になっています。

**視点⑩ 児童生徒が選択できる課題を準備していますか？**  
 人権教育の目標は「自分の人権を守り、他人の人権を守るための実践行動」ができるようになること。人から言われるのではなく、自分から積極的に行動できるようになるためには、日頃から自己決定・選択の場をつくっていくことが大切です。

自分の考えを持つ時間がしっかりと確保されています。

**視点⑦ 信頼関係につながるほめ方、叱り方をしていますか？**  
 児童生徒は、ほめられることで意欲が向上します。他者との良好な関係も築くことができ、学習効果が高まります。意識して賞賛や励ましの言葉をかけましょう。(※詳しくは4ページ)

自分がどの方法で解いたのかが、相手にわかる工夫がみられます。交流活動の際に、誰と交流するかの自己選択・決定の手だてとしても有効です。

ペア交流の時間がしっかりと8分間も確保されています。

**視点⑧ 説明はポイントを絞り、児童生徒の活動する時間を確保していますか？**  
 人権感覚を育成するためには、自分で「感じ・考え・行動する」主体的・実践的な学習が必要で、そのためには活動の時間の確保が大切な視点になってきます。教師はついしゃべりすぎてしまうものです。説明はポイントを絞り活動の時間を確保しましょう。

**視点⑨ 児童生徒同士が話し合う場を設定したり、児童生徒の意見をうかがっていますか？**  
 児童生徒は交流活動の中で、「想像力や共感性」「コミュニケーション能力」「人間関係調整力」等の人権感覚育成の力が身につけてきます。教師は学び合いのコーディネーターに徹してみることが必要です。発言をつなぐ際には、教師の意図と異なる考えを抑制したり切り捨てたりせず、間違っただけを大切にしましょう。

発表によって自分の考えを示したり、考えを深めたりする場がしっかりと設定されています。

学習内容の整理や定着を図るため、生活の中で活用を示すなどの工夫がみられます。

**視点① 児童生徒の学習時間や、休み時間を確保していますか？**  
**視点② 学習中のルールについての声かけをしていますか？**  
 時間やルールを守ることは、お互いが過ごしやすい学校生活を送るために必要です。学びやすい学習環境が整っていることは人権教育の成立の基盤です。

**視点③ 児童生徒は学習用具等を準備して学習に臨んでいますか？**  
 授業の開始時に学習用具の準備ができていることは、「学習に参加している」「自分が大切にされている」という実感を持たせるためにも大切な視点です。授業の開始時に学習用具の準備ができていないかを習慣化しましょう。

**視点⑤ 名前を呼ぶときは、児童生徒を尊重した呼び方をしていますか？**  
 人権が尊重された授業をつくる上で、言語環境はとても大切です。児童生徒に場所や状況に応じた言葉遣いを身に付けられるためにも、教師がまず名前をきちんと呼びましょう。交流活動等の場面で、きちんと名前を呼び合えるような授業づくりを心がけましょう。



授業の中で「よくできたね」「がんばってるな」等の承認や賞賛、励ましなどを行っていますか

認められ励まされ、ほめられることで児童生徒は存在感をもつことができます。そのことで自信がついたり、意欲を持って取り組むことができるようになります。特に、自信や意欲を失いかけている児童生徒に対しては、どんな小さなことでもいいから声をかけてほめたり、励ましてあげることが大切です。

みなさんは「ほめ言葉」をいくつ持っていますか。

「児童生徒を認め、ほめてあげるように」とよく言われますが、どのような言葉かけがあるのでしょうか。また、そのようなほめ言葉をいくつ持っているのでしょうか。いつも同じように「いいね」「いいよ」「すばらしい」のワンパターンになっていませんか。まずは、自分がどんなほめ言葉をかけているのか、振り返ってみませんか。

### 学び方・考え方のほめ言葉

新しいアイデアだね	いいセンスしてるね
アイデアが豊富だね	グングン伸びてるね
話が分かりやすいよ	表現力豊かだね
覚えるのが早いね	観察力があるね
気合い入っているね	判断力があるね
勘がいいね	言葉がきれいだね
相手の立場に立ってるね	発想が豊かだね
具体的でいいね	ポイントつかんでるね
最後までやれたね	まとめるのがうまいね
反応がいいね	創造力あるね
上達が早いね	腕をあげたね
鋭い	絶好調だね
正確だね	よく考えてるね
積極的だね	レベル高いよ

### 人の支え方のほめ言葉

気配りができるね	みんな助かってるよ
頼もしいな	リーダーシップがあるね
見習いたいよ	責任感があるね
相手の立場に立ってるね	ほめ上手だね
人の話をよく聴いているね	優しいね
人の気持ちをよく考えてるね	存在感あるね

より具体的にほめましょう。

単に「いいね」では、何がどういいのか分かりません。何がいいのか、どこがいいのか、より具体的に示すことが大切です。

表情や声の工夫を

表情や声にも気を配りたいものです。同じ言葉をかけても冷たい表情であれば受け止め方も違ってきます。

### その他のほめ言葉

こんなにできるようになったんだ
集中力あるね
これからが楽しみだ
真剣さがいいね
自分らしさが出るね
話題が豊富だね

温かい言葉のシャワーを！

授業の達人は子どもの背中を押しながら、そしてほめます。ほめるには子どもの良さを発見する力が必要です。多様な角度から良さを発見し、よくやったとか頑張ったではなく、事実をほめることが重要です。「これまで少数の掛け算で時間がかかってきたけど、整数の掛け算と同じようにできるようになりましたね」とステップアップしたことがきちんとわかるようなほめ方が大切なのです。「本気でほめる」ことは子どもを本気で伸ばそうという姿勢でもあります。ほめることは子どもの活力を生む最高のビタミン剤です。指示・注意を「冷たいシャワー」と例えるならば、ほめる・励ますは「温かいシャワー」です。どの子どもにもたっぷりとかけてあげることが大切です。  
(千葉市教育センター「達人に学ぶ授業力」より)